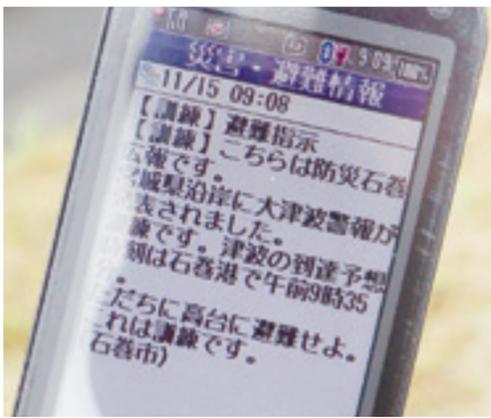


「自分で守る、地域で支える」



巨大地震と大津波の発生に備えた平成27年度石巻市総合防災訓練が11月15日(日)に全市一斉に行われました。「自分で守る、地域で支える」のスローガンのもと、一人一人が身の安全確保と避難経路を確認する“第1段階”、その後、自主防災組織や町内会による“第2段階”に移行し、自助と共助の意識を高めました。小中学校でもさまざまな形で訓練を行い、有事にどのように避難するかを学びました。

全避難一行動を地域で確認



地域の皆さんも簡易担架作り等を行い、共助の重要性を学びました。



渡波小学校

児童と地区自治会員が参加して濃煙道を通る体験や119番の正しいかけ方等に取り組みました。



高台避難を呼びかける防災行政無線を受け、児童たちが外階段を使って校舎屋上に向かいました。防災頭巾を着用し、身を守りながらの避難を体験しました。



低・中学年児童は、災害時における警察・消防署員の仕事について学習しました。

上釜地区



避難集合場所では、高齢者等徒歩での移動が難しい要援護者を想定し、車いすを用いた避難訓練も行いました。



高学年児童は、作成した防災マップの発表会を行いました。児童たちによる発表の後、地域の皆さんからのアドバイスを地図に書き加え、地図を完成させました。



災害時に役立つ災害用伝言板の体験や、非常用電源として機能する電気自動車の展示もありました。

貞山小学校



総合体験訓練では、消火器を使った初期消火や応急手当、炊き出し等を行って防災意識を高めました。

